2023年度 京都芸術デザイン専門学校
学校関係者評価報告書

1．学校評価の目的と評価について

学校評価とは、学生が質の高いより良い教育活動を享受できるように、学校が学校としての目標や取組等の達成状況を明らかにして、その結果をもとに学校運営の改善を図るために行うものである。学校関係者評価とは、学校が行った自己評価の結果等について、企業を中心とした学校に関係の深い方々（保護者・卒業生等）に評価いただくことを基本とするもので、学校が学校だけでは気づき得ないことに気づき、結果として自己評価そのものの質を高め、次への改善につなげる活動。学校関係者と教職員等との“対話”と“気づき”を通して、学校関係者評価を行う。

学校関係者は、具体的には次の4つの視点で評価を行う。

① 学校経営の改革方針の内容が適切かどうか。
② 普段の学校の取組が「目指す学校像」を実現するためのものになっているかどうか。
③ 学校の自己評価が適切に行われているかどうか。
④ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか。

「2022年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに1（不適切）2（やや不適切）3（ほぼ適切）4（適切）の評価判定を受けた。

2．2023年度学校関係者評価委員会　実施概要

◇実施日時：2023年9月11日（月）13：00～14：45
◇実施場所：京都芸術デザイン専門学校
(1)開会
(2)委員紹介
(3)学校関係者評価委員会の目的
(4)2022年度報告
(5)委員長の選任
(6)学校の現状と今後
(7)協議・意見交換
(8)その他
(9)閉会

3．出席者

【委員名簿】　50音順

学校関係者評価委員（五十音順）		
株式会社イルカ	代表取締役	岩﨑　拓矢　様
岩本繊維株式会社	代表取締役社長	岩本　悠資　様
株式会社MUJI HOUSE	取締役	川内　浩司　様
有限会社 コイズミデザインファクトリー	代表取締役	小泉　達治　様
学校事務局		
京都芸術デザイン専門学校	校長	冨永　良子
京都芸術デザイン専門学校	副校長	実成　尚子
京都芸術デザイン専門学校	社会連携教育委員会　委員長	牛田　大地
京都芸術デザイン専門学校	社会連携教育委員会　委員	田村　篤昌
京都芸術デザイン専門学校	事務局長	荒起　北斗
京都芸術デザイン専門学校	教学課長	中村　三友紀
京都芸術デザイン専門学校	教学課	大須賀　美穂
京都芸術デザイン専門学校	教学課	上野山　日菜

4. 2022年度自己点検・自己評価

評価 ：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
1. 教育理念・目的・育成人材	1－1	理念・目的・育成人材像は定められているか	文藝復興を担う人間の育成という理念、人間教育の上に専門教育があるという価値観、社会が真に欲するより専門的で人間性のゆたかな人材を育成するという目標を明確に定め、実現に向けて努力している。	4	4
	1－2	学校の特色は何か	強固な産学連携企業ネットワークをもつ京都唯一のデザイン総合校として、インターンシッププログラムや企業連携授業の拡充を推し進め、社会連携型教育を特色としている。	4	4
	1－3	社会のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	コースごとの教育課程編成委員会及び進級卒業制作展における企業評価アンケートにより、社会が必要としている育成人材像を明確している。	4	4
	1－4	教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	教育課程編成委員会にて外部委員から業界が必要とする人物像を聞き取り、カリキュラムと目標の方向付けを行っている。企業連携による授業運営体制拡充の一環として、2021 年より外部評価委員を設置。社会や業界のニーズを教育に反映するため、企業プレゼンイベント（ぷれこん、K展）に審査員として参加。	4	4
	●課題、改善方策 ・実践型人材を育成する教育プログラムの再設計など教育改革を推進する。				

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
2. 学校運営	2－1	目的に沿った運営方針が定められているか	2022 年度からの新たな中期 5 ヵ年事業計画を策定し、年度毎の事業計画に取り組んでいる。	4	4
	2－2	事業計画に沿った運営方針が定められているか	教育計画及び部署事業計画は、学園中期計画に基づいた各部門の事業計画に沿って定められている。教育計画、部署事業計画は専門学校の意思決定会議である「全体会議」にて承認されるほか、学園執行部の承認をもって決定する。	4	4
	2－3	運営組織や意思決定機能は、効果的なものになっているか	意思決定機能については、各種会議体を構成し、毎週会議を行っている。内容や段階によって効果的な方針決定ができる体制を整えている。	4	4
	2－4	人事・給与に関する規程や制度は整備されているか	給与明細等閲覧システムを導入し、明細書の廃止などペーパーレス化を行っている。教員人事制度の検討と教職員の時間外労働の改善を実施。	4	4
	2－5	個人情報に関するコンプライアンス体制が整備されているか	新入生対象にインターネット・情報の取り扱いの注意喚起し、情報を適切に判断し、運用できる能力を養っている。機密情報や個人情報などの漏えいなどを防ぐため、データ送受信ルールの策定 およびファイル転送システムを導入。情報セキュリティに関する研修を教職員が受講をし事故を事前に防ぐ取り組みを行っている。	4	4
	2－6	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	学校WEBサイトを通じて教育活動の公開をしている。	4	4
	2－7	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	基幹システムでの情報管理の一元化と、業務の効率化を実施している。Google クラスルームを導入し、スケジュール、授業に関する情報共有機能等を図っている。BI ツールやデジタルダッシュボードを導入し、事業計画の進捗状況をリアルタイムで分析、確認が可能な環境を整備している。	4	4
	●課題、改善方策 ・業務改善・効率化を実行、ペーパーレス化、デジタル化を実施				

評価 ：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
3. 教育活動	3－1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか	教職員総会や定期的な研修を通じて、学園の理念やビジョン、中期計画に基づいた事業計画を教職員に共有し、共通の認識をもって教育課程の編成を実施している。	4	4
	3－2	教育目標・育成人材像は、業界のニーズに向けて正しく方向づけられているか	コースと様々な企業との連携と各種委員会により情報を集約。コース別育成人材像の方向づけを行っている。デザイン思考を育成するための教育プログラムを全コースに導入し、K展等で外部評価委員の意見を伺っている。	4	4
	3－3	カリキュラムは体系的に編成されているか	全コース共通の「デザインプロセスにおける 4 つの能力」を基軸としたカリキュラムを体系的に編成している。また、カリキュラム編成には共通フォーマットを使用するなど、コース間で教育水準に格差が生じないよう一元管理が可能な体制を構築している。	4	4
	3－4	キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	年 2 回のインターンシップ、正課科目内の企業連携授業、企業プレゼンイベント（ぷれこん、K 展）などが連動し、入学から卒業まで一貫したキャリア教育が行える教育プログラムを構築している。2022年度は年間 225社と企業連携授業を行った。	4	4
	3－5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携授業、インターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	社会で必要とされる力を身につけるため、企業と連携した企業プロジェクトを積極的に実施。インターンシップを必修単位として設定し、実践による職業教育を継続している。学内と企業に分散して授業を行う実践型分散授業（ISP）の開発し、導入を行った。	4	4
	3－6	授業評価の実施・評価体制はあるか	半期毎に最終授業日に科目別アンケートの配布及び回収を行っている。結果集計後、各教員へのフィードバックを行い、授業品質の向上を図っている。非常勤教員を巻き込み外部評価から見えた指導課題を全教員で改善に取り組んでいる。	4	4
	3－7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定基準については、全学生に配布する「学生手帳」と本校ホームページ、「シラバス」に明確に記載している。採点基準を明確化し、成績評価の平準化をおこなった	4	4
	3－8	資格取得の指導体制はあるか	業界特性等により必要と判断した資格については、授業科目または集中授業により取得に向けた支援を行っている。	3	3
	3－9	人材育成目標の達成に向けての要件を備えた教員を確保しているか	毎年策定する教育計画に基づき、求人募集などを通じて充足させている。企業ニーズを反映したコースごとの方針に則り、最新の業界情報を踏まえた効果的な教育を実践できる人材を適宜採用している。	4	4
	3－10	教員の指導力育成、職員の能力開発など、教職員の資質向上のための研修等が行われているか	年間 4 回の FD 研修と年1回以上の教職員研修行っている。ビジネススキル・知識習得研修、自己研鑽支援等の職員研修を年1回実施している。	4	4
	●課題、改善方策 ・職業一体型教育プログラムの再設計を行う。 ・ビジュアルデザインコース、コミックイラストコース、キャラクターデザインコースの各カリキュラム内容を検討し、合同授業の可能性を検討する。				

評価 ：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
4. 学修成果	4－1	就職率の向上が図られているか	年2回のインターンシップのほか、オンライン選考会や独自合同企業説明会など、充実した就職支援コンテンツを用意している。また、前年の課題を踏まえ就職支援プログラムを刷新し、適切なタイミングで効果的な施策を行えたことで、2022年度の就職率は99.6%となった。また、早期に就業意識を醸成することが重要であり、1 年次前期から正課科目内の企業連携を拡充するほか、担任授業でのキャリア教育は会議を通じて適宜改善し、質向上及び質の担保を行っている。	4	4
	4－2	退学率の低減が図られているか	出席状況や課題提出状況などについて教職員間で情報を共有し学生対応している。出席率等に応じて個別面談を行い保護者とも連携しながら退学率の低減を図っている。	4	4
	4－3	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	担任授業の中で学生の取り組みを把握。卒業生は企業訪問時に評価や活躍を把握している。	4	4
	4－4	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	特別講座等に卒業生を迎え、就活、キャリアの変遷と成長、現在の幅広い仕事内容・求められるスキルについてお話しをいただき、在校生にフィードバックをしている。	4	4
	●課題、改善方策 ・学修成果評価制度の再構築を行い、情報公開に向けた制度の可視化に着手する。 ・企業連携課題において社会や組織を主体的に活用する視点からビジネス意識を持ち、協働制作を進める中でマネタイズを意識する。				

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
5. 学生支援	5－1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	1 年次前期より始まるキャリア授業の実施とあわせ、担任制による日常指導及び教学課主導による就職相談会の実施など、全体への指導と個別指導を重ねて行っている。京都芸術大学との連携強化による併願入試制度、併設校編入制度を設けている。	4	4
	5－2	学生相談に関する体制は整備されているか	担任やコース助手だけでなく、職員による支援体制も整っている。学園連携においても、京都芸術大学への編入希望者に対して大学アドミッションオフィスが直接サポートするなど支援体制を構築している。	4	4
	5－3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	特待生・奨学生制度を整備しているとともに日本学生支援機構奨学金、入学金免除などの他、経済的な事情により学費の一括が困難な場合には、指定の手続きにより分納、延納の対応も行っている。また修学支援新制度対象校に認定されている。	4	4
	5－4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	学校保健法に従い、毎年4月に定期健康診断を実施。傷害保険に加入し、通学時や授業中の怪我や事故に対する学生の健康管理に努めている。	4	4
	5－5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	自治会活動の運営目的等を明確化し、定例会議により活動状況の確認を行っている。また、活動における機材の貸し出しや提供など、学生が課外活動しやすい環境を整備している。	3	3
	5－6	学生の生活環境への支援はあるか	気軽に相談できるように教員だけでなく、職員も相談を受ける体制を整備している。また、公的機関の支援金を申請し学生に還元している。食生活についても、安価で栄養価を考えた食事の提供を学生食堂で行っている。また学食チケットを配布し、支援を行った。	4	4
	5－7	保護者と適切に連携しているか	担任制を導入しており、学生と定期的な面談を実施している。迅速なサポートができるよう、教職員間で情報共有し、必要に応じで保護者とも連携している。	4	4
	5－8	卒業生への支援体制はあるか	定期的に同窓会役員との会合を行い、卒業生支援策を3つ策定。企業連携展（K 展）で「同窓会賞」を新設し、在校生の活躍につなげる取り組みを行っている。また学校施設obraや学外での展示会のサポートを行う。	3	3
	●課題、改善方策 ・インターンシップ後の集中授業を就活に向けたキャリアプログラムとして再設計する。 ・同窓会の執行体制の整備と運営基盤の強化を図る。				

評価 ：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
6. 教育環境	6－1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	学生数の増加に合わせ、施設環境の整備を図っている。教室収容人数や1授業あたりの対応可能人数など、複数年度を見据えての調整、計画を学園全体で進めている。授業用・学生貸出用のハイスペックなノートパソコンおよびプロジェクターの増備、経年劣化したスクリーンの交換を行った。	3	3
	6－2	学外実習、インターンシップについて十分な教育体制を整備しているか	インターンシップ事前後学習を実施し、体系的な体制を整えた。学内と企業に分散して行う実践型分散授業を導入した。	4	4
	6－3	防災に対する体制は整備されているか	防災組織を組み、年に 1 回の防災訓練を実施。避難場所と経路の確認や、役割確認、消火器の使用方法などを実地で訓練している。半期毎での教室整備や点検を行い教育上の必要性に対応できる整備を更に行っている。学生向けの防災ビデオとパンフレットを在校生サイトに掲出。	4	4
	●課題、改善方策 ・授業運営の向上のため、Wi-Fi設備の強化を行う。 ・経年劣化の教員用パソコンを最新に買い替え、業務効率化を図る。				

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
7.学生の受け入れ募集	7－1	学生募集活動は、適正に行われているか	教職員だけでなく在校生も動員することでより具体的でリアルな学校生活を知る機会を設けている。SNS を主体とした接触チャネルを拡充し、非接触来校者数の増加及び非接触出願ルートを再構築した。学生募集は好調を維持している。高校訪問、学校説明会等の対面での募集活動の拡充。	4	4
	7－2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	就職率・進学率等を公開。具体的な就職企業先、業種も提示することで受験生とのミスマッチを防いでいる。HPを改修し、学校情報の明瞭化を図っている。	4	4
	7－3	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	願書等の記載事項、高校等での調査書・成績証明書の内容などにより、状況に応じ、個別での面接を書類選考者にも実施。入学前のミスマッチを防ぐために適切に判断している。	4	4
	●課題、改善方策 ・留学生の適切な受け入れフロー強化を行う。 ・SNSを活用した認知拡大とブランディング強化を行う。				

大項目		点検項目	現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
8. 財務	8－1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	学生募集は好調を維持している。また、予算に基づく適切な収支のバランスが保持できており、財務基盤の強化が図れている。入学者の増加に伴い、財務基盤が充実。	4	4
	8－2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算、収支計画については、部署ごとに年間計画が策定され、計画的に執行されている。	4	4
	8－3	財務について会計監査が適切に行われているか	月次報告書を経理課とチェックする体制を整えている。また、期末に監査法人による執行状況のチェックを実施している。修学支援新制度の利用学生が増加に伴い、事務手続きを適切・迅速に対応。	4	4
	8－4	財務情報公開の体制整備はできているか	財務状況をHPで公開している。	4	4
	●課題、改善方策 ・修学支援新制度の拡充に向けて、事務手続きのフロー見直しを行う。				

評価 ：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
9. 法令等の遵守	9－1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	京都府・京都市・その他関係機関へ逐次相談の上、逸脱しないよう細心の注意を行っている。新入生対象にインターネット・情報の取り扱いの注意喚起し、情報を適切に判断し、運用できる能力を養う。インターンシップで企業の機密情報を学生が知り得る機会が増加しており、機密保持について授業内で指導を行っている。	4	4
	9－2	個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか	当該学生、保護者に対し、あらかじめ文書で利用目的を明示し、利用について同意を得ることを厳守しており、個人情報へのアクセスを制限して漏えいを未然に防止している。機密情報や個人情報などの漏えいなどを防ぐため、データ送受信ルールの策定およびファイル転送システムを導入。	4	4
	9－3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	授業評価・満足度を図るため、全学生にアンケートを実施。アンケートから抽出した改善点を教職員で共有し、学校運営に反映している。「学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を公表している。	4	4
	9－4	自己評価結果を公開しているか	「学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を公開している。	4	4
	●課題、改善方策 ・現状の教育方針にあわせた評価項目を見直し、教育内容の深化につながるようにする。				

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
10. 社会貢献・地域貢献	10－1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	京都で実施されるスポーツ大会においてテレビ中継のため屋上の貸し出しを行っている。学生ラウンジを使用した、おにぎり・お弁当販売を行い、近隣住民にも開放をしている。学校施設obraで学生の商品販売や学園祭イベントの実施。	3	3
	10－2	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）受託等を積極的に実施しているか	自治体や地元企業との受託事業を行い、地域貢献、地域活性化の一助を担っている。	4	4
	●課題、改善方策 ・伝統産業の価値の再発見と活性化につながる教育活動を行い、地域や文化に貢献を行う。 ・通信教育部と連携し、本学授業の一部を公開講座として一般の方も受講できるよう検討をする。				

大項目	点検項目		現状の取り組み内容	自己評価	学校関係者評価
11. 国際交流	11－1	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	同法人である京都文化日本語学校や京都芸術大学、韓国や中国、台湾事務所との連携や情報交換を行うことにより現状に即した募集戦略を構築している。	3	3
	11－2	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	定期的な留学生への説明会、ビザの管理など、学生生活の支援体制を整えている。在留期間更新手続きの説明会を実施。留学生面談を行い、希望進路に適したサポート体制を整えている。	4	4
	11－3	留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	新入生全員（留学生）を対象にオリエンテーションの実施および、コミュニケーション向上を目的とした日本語学習プログラムを実施。留学生カウンセラーを設置し、面談を実施している。	3	3
	11－4	学修成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	英文での卒業証明書、成績証明書を発行するとともに、GPA 評価を導入している。	3	3
	●課題、改善方策 ・学内の交流会を実施。横のつながりを増やすことで孤立を防ぎ、留学生の学校生活順応を促す。				

5. 協議・意見交換
下記について委員との協議及び意見交換を行った。

●委員からの総括意見

・デザインだけではなく、企画して販売を行い、実際にカスタマーに届けるところまでをデザイナー自身が考えられるように指導していることはとても良いと思う。プレゼンテーションはも就活の中でもとても必要とされる能力だと思うので、カリキュラムの中でコミュニケーション力が磨かれていくと感じた。

・4つの能力を明確に分け、意識させているところが素晴らしいと思う。

・京都芸術デザイン専門学校での2年間の勉強の中で職業への意識や社会の関心が高まり、入社している卒業生がほとんどであると感じている。

●人材育成視点に基づき、貴社において必要とされる《力》に関して

・問題発見はなかなか難しく、仕事で実践していかないと分からないことが多い。若いスタッフにはキャリアを積んでから能力がつくというイメージを持っている。問題を発見することよりも、その課題や問題をどうやって形にしていくという方法論を考えられるところが大事かと思う。様々なデザインの知識が必要で、1個のデザインに対して自分で深く学ばなければならないという意識付けがとても大事。AIを活用して画像生成だけではなく、チャットGPTのような言語型のツールも活用できることは1つのヒントになるのではないかと思う。これらの方法を目の前で実演し、それを真似させることで、学習効果が高まる。

・お客様の目線に立ってものごとを考えることができる目線力、コミュニケーション能力を重要視している。受注したものを商品にすること、お客様から求められた新商品の開発などが主になる。そのためにはどのようなデザインでどのような素材を使って、さらにコストについても考える必要がある。卒業生がWebでの商品ページを作り、商品撮影、接客の全般やっているが、視覚化力と造形力は社会に出てから実践で学んでいくことの方が多いのではないかと思う。お客様の悩みや問題にどのようにアプローチしていくか。問題を解決できるような商品を作る中で本来の目的ずれてしまうことがあるため、お客様の立場になっているか修正していくようなことがある。現場での場数を踏み、経験をどんどん繰り返して、点が線になって繋がっていくことで問題発見力が身につくのではないかと思う。実際の企業の事例を授業で紹介したり、授業に活かすことで学生がイメージしやすくなるのではないか？

・会社の独自の商品開発につながっているという意味では、問題発見力、次に発想力が非常に重要だと思う。造形力、視覚力の能力は学校で教え、経験を積むことで能力を養うことができる。問題発見力、発想力というのは、この能力のある人は非常に少なく、その点をいかに教え、トレーニングできるかが難しい。今、世の中にあるものを知り尽くしてからでないと問題発見力というのは生まれてこないのではないか。この問題発見力というのを企業でも常に議論し、トレーニングしようとしている。難しいとこであるがゆえに問題発見力、発想力に長けた能力をもつ人材が欲しいと考えている。世の中に提案しなければいけないものは何なのかという発想力がなかなか非常に難しい。これができれば逆にいうとデザインは外注ができる。評価として4つの軸を明文化して教えているが、最終的にに目指すのは問題発見力であり、専門学校の2年間では学べないかもしれないが、10年やっても20年やっても学べないかもしれないが、少しずつ鍛錬していくことで芽生えていくものであると意識づけるっていうことはすごく大事だと思う。自分たちが到達するレベルを意識させることがとても重要。

・ユーザーの目線というのは実際にユーザーなどと接する営業でもある程度理解できると思う。デザイナーがやるべきことは、営業がくみ取れない問題を発見することであり、ある程度経験を積んで初めてできる力がある。それを専門学校の2年間の間に習得させるっていうことが正直可能かどうかというと、なかなか難しい部分でもあると思う。発想力の前に対応力というものが必要なのではないか？その問題に対してどういう対応ができるか、その上で発想するっていうことが大切なのではないかと思う。現場をたくさん知り、いろんな仕事を経験することで、相手のことを理解する力がついてくると思う。できるだけ現場の空気というか、仕事の経験を積むことが大事だと思う。目的を持ったり、意識を持ったり、興味を持って自分を高めたり、勉強していこうとする力を培うカリキュラムがあればいいのではないか。

6. 総括
上記11項目の自己評価について、委員の皆様にご承認をいただいた。
本校の教育内容は①問題発見力、②発想力、③視覚化力、④造形力の4つの能力を重視している。この4つ能力を明文化し、学生の理解と思考の定着に効果のある教育内容について委員より評価をいただいた。企業連携科目については、採用時や採用後の人材育成において必要なポイントを具体的に組み込んだ評価ルーブリックを設計し、プレゼンテーションに導入した。指摘事項をもとに、企業や社会が求める必要な能力、技術を精査し、人間力と社会人基礎力、デザイン力を備えた人材育成を強化する。また、2023年度に一部導入したルーブリック評価を展開し、全科目の学修成果評価制度の再構築と可視化に着手する。